

事業名：「ことばの教育」パイロット校事業

学校名：大竹市立玖波中学校

所在地：大竹市玖波四丁目12番1号

H P：kubachu@alto.ocn.ne.jp

学校規模：6学級 145名

### 1 研究の概要

#### (1) 研究テーマ及び研究のねらい

##### ① 研究テーマ

豊かなことばで分かりやすく伝える力を育てる  
～思考力、表現力を高める授業づくり～

研究仮説を『「ことばの時間」や各教科等で『言語技術』を効果的に導入し、『思考力、表現力』を高める授業を繰り返し行こなえば、豊かなことばで分かりやすく伝える力が向上するであろう。』とし、研究テーマ達成のための重点的な取組みを次の3点とした。

- 「ことばの時間」における「言語技術」指導
- 各教科等における「思考力、表現力」を高める授業づくり
- 言語環境づくり

#### (2) 研究組織・体制

「一人一役」を合言葉に、全教職員で研究に取り組めるよう研究体制を整えた。

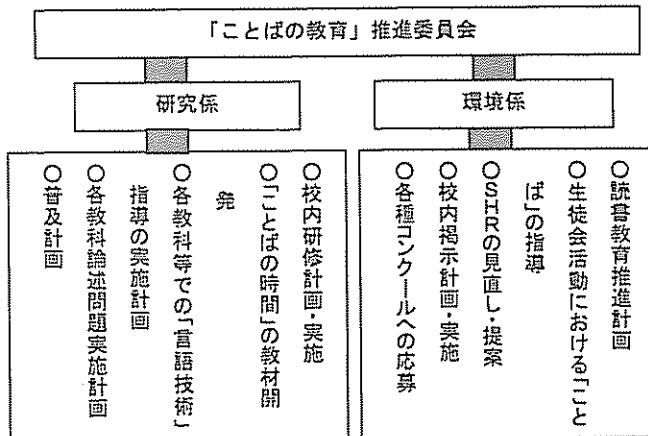


図1. 「ことばの教育」の研究組織

#### (3) 研究内容

##### ① 「ことばの時間」における「言語技術」指導

対象：全学年

年間授業時数：35時間

「ことばの時間」のねらい：文章や図、表、絵などを読解、比較、分析をし、自分の考えを自分の言葉で分かりやすく表現することで、論理的思考力、自己表現力、コミュニケーション能力を養う。

ねらいや教材例の設定：「ことばの時間」におけるねらいや教材を、学年に応じた「言語技術」の習熟度の違いから、1学年と2・3学年で分けて次のように設定した。

学年	ねらい	教材例
1学年	文章や図、表、絵などの読解、比較、分析したことを分かりやすく伝える力を身に付ける。	・問答ゲーム ・再話 ・絵の分析 ・メモの取り方 ・KJ法で話し合い ・意見文の書き方
2・3学年	文章や図、表、絵などの読解、比較、分析したことをもとに自分の考えを構築し、効果的に表現する力を身に付ける。	・絵の分析（テーマ） ・物語の構造分析と創作 ・複数の視点で考える ・アピール

表1. 「ことばの時間」のねらいと教材例

##### ② 各教科における思考力、表現力を高める取組み 各教科において、次の3点を共通の取組みとした。

- 1 「ことばの時間」で習得した「言語技術」を用いた授業づくり
- 2 各教科の特色に応じた思考力、表現力を高める授業づくり
- 3 思考力を高める論述問題作成

### 2 研究の成果と課題等

#### (1) 成果

##### 「学力」の変容

「基礎・基本」定着状況調査から検証したところ、最も数値を伸ばしていたのは国語科で、16.5ポイントの伸びであった。いずれの教科も県平均と比べて数値が高く、より学力が定着してきていると言える。（図2参照）

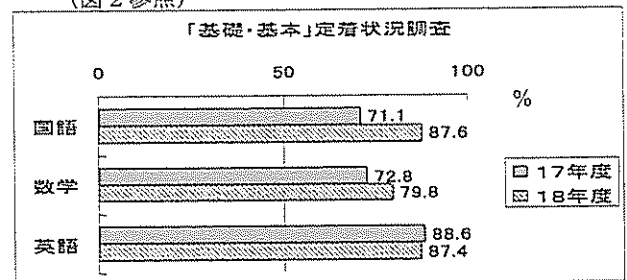


図2. 「基礎・基本」定着状況調査の変容

##### 「コミュニケーション能力」の変容

「基礎・基本」定着状況調査の「意識・実態調査」から「コミュニケーション能力」に関わる項目を抽出して検証した。具体的には「見たことや聞いたことを、順序よく伝えていきます」、「授業中、自分の意見や考えを分かりやすく説明しています」などの項目を昨年度と比べた。

この結果、例にあげた2つの項目で「あてはまる」と答えた生徒の割合が約15ポイント伸びていることが分かった。その他の項目についても上昇傾向にあり、「コミュニケーション能力」は高まってきていると言える。

**「思考力」の変容**

「思考力」については、5月と7月に実施した本校作成の作文検証テストの結果からその変容を述べる。課題は、いずれも賛成か反対か立場を決めて意見と理由を述べる形式であった。生徒作文を検証したところ「反対側の意見を取り入れて論じている生徒」の割合が増えていることが分かる。(図3参照)つまり、複数の視点で考える力が身に付いてきているのである。これは生徒の「思考力」が高まっていると言える。

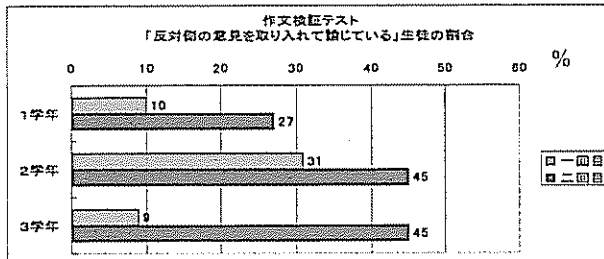


図3. 作文検証テストの分析

(2) 課題

(昨年度末の課題)

伝える「内容」の質があまり向上していない

(課題解決のための今年度の取組み)

「思考力」の育成を重視した授業づくり

(今年度途中の課題)

「思考」に専念するあまりに、わかりやすい「表現」に意識が回らないことがある。

3 実践事例

(1) 3学年・社会科

(2) 単元について

① 単元名「消費と貯蓄」

② 単元の目標「消費活動を通して経済活動における選択の原理や所得と消費の関係を理解する」

(3) 授業のねらい

将来の消費生活における設計を具体的にする活動を通して、所得と消費の関係を理解する。

(4) 授業改善のポイント

課題

「未来予想図」をえがこう

あなたは、高等学校を卒業して、就職をしました。月収は16万円です。そして、廿日市市でひとり暮らしを始めました。その際、親から準備金として3万円をもらいました。さて、あなたはどんな生活を送りますか？

工夫 1

思考力を高める工夫

課題設定を生徒が考えやすい身近なもの、具体的なものとする。また、社会科の目標としては「個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、自ら考える態度を養う」ことを意図している。

展開

衣・食・住にわけて設けられた選択肢を、様々な角度から分析して一つずつ選び、その理由とともにワークシートに書き、発表をする。

様々な角度から分析する「言語技術」

工夫 2

思考力を高める工夫

複数の視点を与えて分析させることで、社会科として「様々な資料を適切に選択して多面的・多角的に考察する能力」を引き出すことをねらいとしている。

生徒の解答例

私が選んだのは大型スーパーの新しいスーツ(1万円)です。理由は、親のお下がりだと新しい生活という感じがしないし、専門店のスーツは高すぎるからです。

自らの考えの根拠を明らかにして述べる「言語技術」

工夫 3

表現力を高める工夫

相手にわかりやすく適切な根拠を述べる場を設ける。これは「考察、判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」という社会科のねらいに沿ったものである。

(5) 成果

社会科と家庭科の定期テストにおける論述問題で満点をとった生徒の割合をグラフで表した。(図4参照)これを見ると、ほとんどの学年で1学期末より2学期末の方が満点の生徒が増えていることが分かる。このことから、「表現力」「思考力」を高めるような授業づくりを進めることで、生徒は教科の力も伸ばすことができると言える。

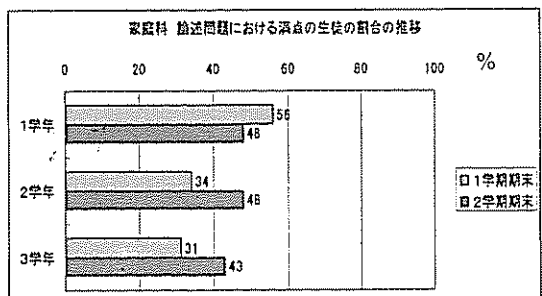
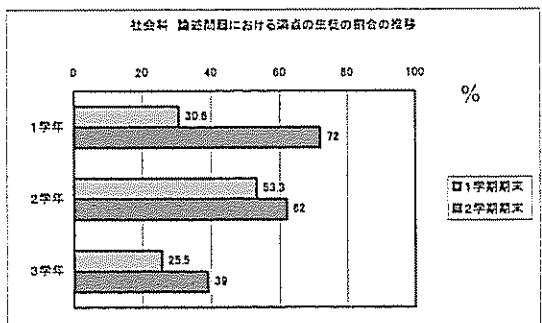


図4. 論述問題における満点の生徒の割合の推移